

令和7年度 東京都立田園調布高等学校 学校経営報告（案）

7年度の経営目標	実施内容等
1 学校経営・組織体制	<p>令和8年度からの新教育課程の編成に向け、教育課程委員会や教科主任会・科会での検討を行った。</p> <p>授業及び行事や部活動、委員会活動、さまざまな体験活動を通し、進学先や社会で活用できる学力を身に付ける教育活動を展開した。</p> <p>①目標達成に向けて、教職員間で共通理解を図りながら実施することができた。</p> <p>②分掌・学年・教科・経営企画室間の連携を図り、企画調整会議を基軸とした学校経営を行った。</p> <p>③研究紀要について、新たな企画を実施できたことも含め、5年連続で発行した。</p>
2 学習指導	<p>理数研究校とGE-NET EEの指定を受け、学習指導力、授業力の向上に組織的・計画的に取り組むと共に、観点別評価を取り入れた授業評価を行うことができた。</p> <p>①業者に頼らない模試分析会を実施し、分野ごと小問ごとの正答状況を踏まえ、学習指導の成果検証を行った。教科ごと、学年ごとの分析により、課題の共有をし、教科指導の改善へとつなげた。</p> <p>②大学入試を意識した夏季休業中の講習や土曜講習、大学入学共通テスト直前講習を計画的に実施し、学力向上を図った。</p> <p>③人間と社会では、外部組織「フォーラム21」や「16歳の仕事塾」等の協力をいただき、次学年に向けた探究学習の充実に努めることができた。</p> <p>④総合的な探究の時間では、一人一人が設定したフィールドワークを実施し、探究を深めることができた。2学期末に全員、3学期末には代表者による発表を行い、成果物として冊子を作製した。</p> <p>⑤個々の授業力向上のため、相互授業参観や他校の授業参観を通し、教科指導力の向上を図った。</p> <p>⑥GE-NET EEの指定を活かし、GTEC検定版の受験、オンライン英会話の充実や海外派遣研修等の参加を通じて、国際社会で生きる人材の育成を進めることができた。</p> <p>⑦理数研究校として、昨年に引き続きTokyoサイエンスフェアでの発表、電気通信大学との高大連携プログラムや外部機関が企画するイベントにも参加するなど、本物に触れる機会を設定し、取り組んだ。</p> <p>⑧自習室や多目的室の学習環境を整備し、生徒の自主学習を推進した。</p>
3 生活指導	<p>週に一回程度、生活指導部連絡会を開催し、共通認識のもと、組織的に生活指導に取り組むことができた。</p> <p>①教育相談委員会及びいじめ防止委員会を毎月開催し、生徒状況の把握を、スクールカウンセラーを交えて実施した。また、年間3回のいじめ調査により、生徒の状況把握を的確に行い、いじめへの発展を防止することができた。</p> <p>②スクールカウンセラーによる講演会等を開催し、生徒の心身の健康の保持増進に努めた。</p> <p>③1年生を対象としたSNSの適切な利用及び薬物乱用防止講座を、所轄警察署と連携し実施した。</p> <p>④所定の避難訓練に合わせて、学校防災拠点訓練（地域と連携した防災訓練）を実施し、1年生全員が参加し実施することができた。</p> <p>また、避難訓練は、生徒会が企画から参加し、生徒の目線を活かして実施することができた。</p> <p>⑤生徒に規則正しい生活習慣の確立を意識させた結果、遅刻回数が大幅に減少した。</p> <p>⑥自転車乗車時のヘルメットの着用について、生徒及び保護者への啓発活動を行った結果、ヘルメット着用率が上昇した。</p>
4 進路指導	<p>「田高進路プロジェクト」に基づき、進路指導部、学年、教科が協力し、進路指</p>

	<p>導を計画的に実施することができた。</p> <p>①模試分析会に指導主事を招き、各教科の分析結果や模試全体の概況について情報共有することにより、模試分析会についての評価をいただいた。</p> <p>②進路指導部を中心にアドバンスクラスの指導法を取りまとめた。</p> <p>③1・2年生対象に大学出張講義を企画し、13大学の協力を得て実施することができた。</p> <p>④大学入試説明会を企画実施し、6大学の事務局や教授等に来校いただいた。全学年を対象として各回平均して20～30名の参加があり好評であった。</p> <p>⑤模試分析会の実施について進路指導部が各学年をけん引し、次年度以降の継続的な実施を決定することができた。</p> <p>⑥夏季集中型学力向上講習(1・2年生)、3学年の夏期講習等を進路指導部がとりまとめ、各教科と連携して効果的な学習指導を行うことができた。</p> <p>⑦保護者会等で詳細な進路情報の提供を行うことができた。</p>		
5 特別活動、部活動	<p>①部活動についてはガイドラインに従い活動を行うことができた。宿泊を伴う活動は6団体実施することができた。</p> <p>②体育祭、文化祭、合唱祭は、予定どおり実施することができた。</p> <p>③ビブリオバトルを図書委員会の生徒が進行役として12月に実施し、読書活動を推進するとともに、表現力やプレゼンテーション能力の向上に努めた。</p> <p>④都立高校海外派遣研修に参加し、全学年を対象とし現地で学んだことについて成果を発表した。</p> <p>⑤宮城スタディツアーを3月に実施し、希望する生徒12名が参加し、現地で遺族の方のお話を聞き、被災後の状況と対応について専門家から話を伺った。</p> <p>⑥能登訪問プログラムを3月に実施、生徒3名(生徒会役員)が参加した。文化祭での収益金を石川県輪島市門前町の施設に寄付するとともに、仮設住宅でのイベントを開催し、現地で交流するなど、社会貢献につながる活動ができた。</p>		
6 募集・広報活動	<p>推薦入試、学力検査共に例年より倍率が上昇した。</p> <p>①ホームページの年間更新回数は350回(R6:328回)を超え、情報発信ができた。</p> <p>②近隣の中学校に加え、進学指導塾や外部団体にける合同説明会にも参加し、本校のPR活動を行った。</p> <p>③中学校への学校説明会や出前授業にも参加し、中学生へのPRに努めた。</p>		
令和7年度の主な学校説明会等の来校者数			
都立高校 EXPO (7/26)	511/234/135	城南地区合同説明会 (10/5)	168/64/50
第1回学校見学会(7/29)	631/1028/1180	第1回学校説明会 (10/25)	500/320/626
第2回学校見学会(8/8)	1128/750/1160	第2回学校説明会 (11/15)	470/384/505
都立高校 EXPO2 : (8/9)	92	第3回学校説明会 (12/13)	101/110/138
第3回学校見学会 (8/23)	1110/1386/1164	臨時学校説明会 (12/26)	88
令和7年度の数値目標			
①大学現役合格者数		① 大学現役合格者数	
・国公立大	10名以上	・国公立大	4名/6名/4名
・難関私大(早慶上理)	10名以上	・難関私大(早慶上理)	9名/6名/9名
・私大(GMARCH)	60名以上	・私大(GMARCH)	82名/63名/63名
②「本校に入学して満足している」		②「本校に入学して満足している」	
	85%以上		84%
③「生徒の進路希望実現に必要な学力を育む授業を行っている」		③「生徒の進路希望実現に必要な学力を育む授業を行っている」	
	85%以上		85%
④生徒の授業以外の学習時間の目安を1年生2時間、2年生3時間、3年生4時間として、各学年の達成目標		④達成率	
	30%以上	(1年生:2時間以上 3%、1～2時間:24%)	
		(2年生:3時間以上 38%、2時間 30.1%)	
		※2年生は3年4月当初に調査回答	

⑤ 1・2年生の部活動加入率	80%	⑤ 1・2年生の部活動加入率	78.2%/69.5%/72.5%
① 入学者選抜応募倍率を、 ・推薦 ・第一次	3.2倍以上 2.0倍以上	⑤ 入学者選抜応募倍率 ・推薦 ・第一次	2.67/1.96/2.50 1.63/1.41/1.87
⑥ 東京都体力・運動能力調査の体力合計点の平均値を、東京都平均以上とする。		⑥ 東京都体力・運動能力調査の体力合計点の平均値 ・男子 ・女子	50.4 (東京都平均 51.3) 49.2 (東京都平均 49.6)

翌年度以降の課題と改善策

- 全日制普通科高校としての役割をしっかりと果たし、学習活動、学校行事、部活動、委員会活動、本物に触れる活動等、教育活動を充実させ、生徒の学校満足度を向上する努力を行う。
- 教職員のライフワークバランスを考え、土曜講習実施による負荷の軽減（振休日を取れる時間割の作成や工夫した行事の時間構成）とともに、1曜日を定時退庁とする等、長時間勤務を減らすよう改善する。
- 分掌間、分掌内での業務量の偏りを改善する。
- 引き続き観点別評価の実施、生徒がICT機器を活用する授業の実施。全ての教員が授業力向上につながる取組みを行う。
- 生徒に寄り添った生徒指導、専門機関と連携した生徒のメンタルヘルスケアの充実を通して、生命尊重の教育を実践する。
- 18歳成人を見据えた、主権者教育を実施する。
- 進学指導研究校の経験を生かし、他校の授業見学や、職員研修、模試分析からの学習指導の力量の向上を図る。学年担任だけでなく、全ての教科の教員がエビデンスに基づいた進路指導ができるように組織的な取組みを行う。
- 学校行事、部活動、委員会活動を生徒主体で実施し、生徒自らが田園調布高校の学校行事、部活動、委員会活動を作り上げるという気持ちになるような指導を教職員から生徒へ促していく。
- 10年後の生徒数激減を見据え、学校案内やWebページにおける内容の充実、及びPR活動をできる限り行い、応募倍率を向上させる。また、受検人員確保のための戦略も今後検討する。
- 教職員が田園調布高校を愛し、生徒一人一人の声に真摯に耳を傾け、心のこもった温かい指導を充実させることが必要である。生徒が教員の指示を待つのではなく自分で考えることができるように指導し、さらに、教員は上司からの指示待ちになるのではなく、自らが学校経営に参画する提案を教職員から出していく。
- 令和8年度も、年度末に一年間の取組をまとめた紀要を作成し、学校としての活動の記録を残す。また、管理職は生徒・教職員の意見を聞きながら、真摯に学校運営を行う。